

# 平成29年4月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)



平成29年3月17日

上場会社名 株式会社 サンオートス  
 コード番号 7623 URL <http://www.sunautas.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 北野 俊  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 古川 晴男

TEL 045-473-1211

四半期報告書提出予定日 平成29年3月17日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成29年4月期第3四半期の連結業績(平成28年5月1日～平成29年1月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年4月期第3四半期	21,629	11.5	158		100		77	
28年4月期第3四半期	24,442	15.2	188		171		226	

(注) 包括利益 29年4月期第3四半期 74百万円 ( %) 28年4月期第3四半期 244百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年4月期第3四半期	24.85	
28年4月期第3四半期	72.32	

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年4月期第3四半期	14,553	2,758	18.9
28年4月期	14,475	2,857	19.7

(参考) 自己資本 29年4月期第3四半期 2,755百万円 28年4月期 2,855百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年4月期		0.00		8.00	8.00
29年4月期		0.00			
29年4月期(予想)				12.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成29年 4月期の連結業績予想(平成28年 5月 1日～平成29年 4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	28,000	13.3	100		150		60		20.75

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年4月期3Q	3,230,500 株	28年4月期	3,230,500 株
期末自己株式数	29年4月期3Q	97,964 株	28年4月期	97,964 株
期中平均株式数(四半期累計)	29年4月期3Q	3,132,536 株	28年4月期3Q	3,132,549 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による金融緩和政策により、雇用環境が改善するなど、景気は緩やかな回復基調が続きました。米国新政権の経済政策への期待感から株高・円安等の明るい兆しはあるものの、中国をはじめとする新興国の景気減速や英国のEU離脱問題等により、景気は先行き不透明な状況で推移しております。

このような状況の下、石油製品販売業界におきましては、原油価格は前期末から緩やかな上昇基調で推移しましたが、先行きは依然不透明であり、ハイブリッド車をはじめとする低燃費車の普及等による国内石油製品の構造的な需要減少が続いております。自動車販売業界におきましては、引き続き、輸入車ブランド間による顧客獲得競争が激化するなど、厳しい経営環境におかれましては。

その結果、売上高は21,629百万円（前年同四半期比2,812百万円減収、11.5%減少）、営業損失158百万円（前年同四半期は188百万円の営業損失）、経常損失100百万円（前年同四半期は171百万円の経常損失）を計上し、法人税等負担後の親会社株主に帰属する四半期純損失は77百万円（前年同四半期は226百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。なお、セグメント間の取引については、相殺消去前の数値によって表示しております。

#### ① エネルギー事業（石油製品販売、カーケア商品販売、車検・整備）

当事業につきましては、石油製品価格の低下や販売競争が激化するなか、前期末に不採算のSSを6店舗閉鎖したことに伴い、全体の燃料油販売数量は減少いたしました。既存店の販売数量は増加いたしました。一方で、お客さまの多様なニーズに的確にお応えするため、タイヤ・コーティング洗車、メンテナンス商材の充実と点検サービスのアフターフォローを徹底するなど、お客さまの満足度向上に努めました。また、JXエネルギー代理店として「ENEOSでんき」のご案内を通し、顧客接点の拡充に注力いたしました。損益面では不採算店舗の閉鎖、油外商材の拡販・サービス提供の充実により改善の途上にあります。

この結果、売上高は7,246百万円（前年同四半期比2,309百万円減収）、セグメント利益は14百万円（前年同四半期はセグメント損失84百万円）となりました。

#### ② カービジネス事業（BMW、プジョーの輸入車正規ディーラー、オリックス・レンタカー）

国内における輸入車販売は増加傾向にある中で、当事業の輸入車ブランドにつきましても、ショッピングモールへの出張展示会を積極的に開催するなど、新規ユーザーの獲得と買い替え促進策を展開いたしました。BMWでの売上高については、新型車種の発売が期後半になったこと及びユーザーの嗜好が低価格帯の車種への移行したことによる販売構成の変化により減少しました。また、フォード日本撤退の影響もあり、販売台数・販売額ともに対前年四半期に比べ伸び悩みました。

フォード直営店の営業譲渡によるプジョー成城店を平成28年12月にオープン、営業を開始いたしました。さらに、フォード車顧客の取込をめざし同じ米国車のブランドであるジープ車販売に新規参入、平成29年3月に新店舗を開設する予定となっております。

レンタカーにつきましては、顧客獲得競争が激化するなか、顧客満足度向上のため新車・人気車の積極的な車両入替を行いながら、法人新規開拓や既存ユーザーの囲い込みに注力いたしました。

この結果、売上高は14,041百万円（前年同四半期比472百万円減収）、セグメント損失は101百万円（前年同四半期はセグメント損失55百万円）となりました。

③ ライフサポート事業（損害保険・生命保険募集業務、介護サービス）

当事業の保険部門では、現在4店舗体制の来店型保険ショップ『ほけんの窓口』を展開し、店舗の認知活動による集客力の強化に取り組み、来店客数も順調に推移しました。また、コンサルティング営業力の強化にも努め、相談会の質の向上にも取り組んできました。手数料収入は対前年同四半期に比べて緩やかながらも増加しました。

一方介護サービスにおいては、業者間の競争激化もあり、売上高は減少しました。

この結果、売上高は141百万円（前年同四半期比14百万円減収）、セグメント損失は33百万円（前年同四半期はセグメント損失33百万円）となりました。

④ 不動産関連事業（ビルメンテナンス業、不動産賃貸業）

当事業につきましては、安定した顧客の確保とビルメンテナンスの営業強化から新規受注を獲得したこと、また、不動産賃貸では、賃貸用マンションにおいて空室の稼働を上げるための諸施策を展開したことにより、稼働率が向上するなど引き続き堅調に推移いたしました。

また、事業用資産としては前年度閉鎖したSS跡地の長期的かつ安定的な有効活用策の一環として、平成28年9月よりコンビニエンスストアへの賃貸収入を計上しています。

この結果、売上は343百万円（前年同四半期比10百万円減収）、セグメント利益は79百万円（前年同四半期はセグメント利益82百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、14,553百万円と前連結会計年度末に比べ77百万円増加しました。これは主に、流動資産が427百万円減少したものの、土地が542百万円増加したこと等により固定資産が505百万円増加したことによるものであります。負債合計は11,795百万円と前連結会計年度末に比べ177百万円増加しました。これは流動負債が333百万円増加し、固定負債が155百万円減少したことによるものであります。純資産合計は当第3四半期連結累計期間の業績を反映し99百万円減少して2,758百万円となりました。

その結果、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は0.8ポイント減少して18.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、平成28年6月17日に公表の数値を変更しておりません。なお、この連結業績予想は、本資料の発表日現在において入手している情報に基づいて当社が判断したものであり、実際の業績はさまざまな要因により予想数値と異なる結果になる可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。この結果、当第3四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響額は軽微であります。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年1月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,852,181	973,944
受取手形及び売掛金	1,480,956	1,304,239
商品	2,682,344	3,353,618
貯蔵品	13,136	12,810
繰延税金資産	13,224	915
その他	858,438	840,765
貸倒引当金	△30,090	△43,426
流動資産合計	6,870,190	6,442,866
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,048,396	962,617
土地	4,147,261	4,690,099
リース資産(純額)	719,977	657,203
その他(純額)	579,518	581,451
建設仮勘定	874	106,848
有形固定資産合計	6,496,028	6,998,218
無形固定資産		
その他	17,463	17,116
無形固定資産合計	17,463	17,116
投資その他の資産		
投資有価証券	54,300	58,606
長期貸付金	92,546	80,333
差入保証金	544,738	538,324
繰延税金資産	58,870	62,080
その他	351,017	365,338
貸倒引当金	△9,407	△9,419
投資その他の資産合計	1,092,064	1,095,263
固定資産合計	7,605,556	8,110,599
資産合計	14,475,747	14,553,466

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年1月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,316,392	2,488,595
短期借入金	5,981,029	6,541,587
1年内返済予定の長期借入金	281,328	217,960
リース債務	350,508	318,764
未払法人税等	34,325	12,924
賞与引当金	106,808	42,680
その他	960,950	741,960
流動負債合計	10,031,343	10,364,472
固定負債		
長期借入金	583,160	419,520
リース債務	424,360	391,011
繰延税金負債	6,281	6,147
役員退職慰労引当金	93,491	97,617
退職給付に係る負債	442,345	436,103
その他	36,867	80,263
固定負債合計	1,586,505	1,430,662
負債合計	11,617,849	11,795,135
純資産の部		
株主資本		
資本金	411,250	411,250
資本剰余金	462,500	462,500
利益剰余金	2,024,046	1,921,154
自己株式	△48,969	△48,969
株主資本合計	2,848,826	2,745,934
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,316	9,772
その他の包括利益累計額合計	6,316	9,772
新株予約権	2,755	2,624
純資産合計	2,857,897	2,758,330
負債純資産合計	14,475,747	14,553,466

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成28年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年5月1日 至平成29年1月31日)
売上高	24,442,546	21,629,611
売上原価	20,198,760	17,610,886
売上総利益	4,243,786	4,018,725
販売費及び一般管理費	4,431,918	4,177,306
営業損失(△)	△188,132	△158,580
営業外収益		
受取利息	1,467	864
受取配当金	1,312	810
受取手数料	49,757	44,156
受取補償金	-	53,991
その他	24,968	31,565
営業外収益合計	77,505	131,388
営業外費用		
支払利息	45,725	53,451
その他	15,642	19,588
営業外費用合計	61,368	73,040
経常損失(△)	△171,995	△100,232
特別利益		
固定資産売却益	-	73,462
新株予約権戻入益	87	130
投資有価証券売却益	18,661	-
特別利益合計	18,748	73,592
特別損失		
固定資産売却損	35	-
固定資産除却損	2,560	25,162
特別損失合計	2,596	25,162
税金等調整前四半期純損失(△)	△155,843	△51,802
法人税、住民税及び事業税	20,924	17,561
法人税等調整額	49,788	8,467
法人税等合計	70,712	26,028
四半期純損失(△)	△226,555	△77,831
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△226,555	△77,831

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成28年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年5月1日 至平成29年1月31日)
四半期純損失(△)	△226,555	△77,831
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△17,593	3,455
その他の包括利益合計	△17,593	3,455
四半期包括利益	△244,149	△74,376
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△244,149	△74,376
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成27年5月1日至平成28年1月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	エネルギー 事業	カービジネ ス事業	ライフサポ ート事業	不動産関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	9,462,443	14,497,560	154,270	328,270	24,442,546	—	24,442,546
セグメント間の内部売上高 又は振替高	93,879	16,133	1,341	25,459	136,814	△136,814	—
計	9,556,323	14,513,694	155,612	353,729	24,579,361	△136,814	24,442,546
セグメント利益又は損失(△)	△84,297	△55,656	△33,270	82,029	△91,193	△96,938	△188,132

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△96,938千円には、セグメント間取引消去87,776千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△184,714千円が含まれております。なお、全社費用は管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成28年5月1日至平成29年1月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	エネルギー 事業	カービジネ ス事業	ライフサポ ート事業	不動産関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	7,155,158	14,015,292	139,645	319,516	21,629,611	—	21,629,611
セグメント間の内部売上高 又は振替高	91,321	25,745	1,567	24,023	142,658	△142,658	—
計	7,246,479	14,041,037	141,213	343,539	21,772,270	△142,658	21,629,611
セグメント利益又は損失(△)	14,999	△101,570	△33,039	79,766	△39,844	△118,735	△158,580

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△118,735千円には、セグメント間取引消去72,631千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△191,367千円が含まれております。なお、全社費用は管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。